



コロンボ日本人学校 学校便り

アーユ・ボーワン

平成24年9月17日 発行 No.5

失敗を恐れずチャレンジする子 世界一楽しい学校

「イケテル感」の育成

校長 黒澤 秀美

二学期が始まり二週間が過ぎました。初日から6時間授業で若干疲れ気味の子もいましたが、今は、みんな元気に頑張っています。来週からは、10月の運動会に向けた日課で、運動会の練習を少しずつやっています。運動会では、体力の向上充実はもちろんですが、精神的な面での我慢強さや、耐える力、集団として協調する力を身につけることも大切なねらいです。そして、友達と協力し助け合う中で、思いやりの心や協調性を身につけさせたいところです。また、少ない人数の中で、いろいろな種目に選手として活躍することになりますが、ひとり一人が自分の持ち味を生かし、充実感や達成感もてる運動会になることを願っています。

ところで、以前参加した研修会の中で、ある臨床心理士の言葉に「イケテル感の育成」が大切である云々の話を聞いた事がありました。それまで「イケテル」などという言葉は、はやりの若者言葉かと思っていましたが、臨床心理士や大学の先生の本にも出てくる言葉だとは思いませんでした。因みに「イケテル感の育成」とは、「自己肯定感、自尊心」を大切にすることだそうです。イケテル感を育てるには、子供との信頼関係を土台にして「ほめる」ことです。当たり前のこと、出来て当たり前ことでもほめる。よい変化があればもちろんほめる。叱ることの効果は基本的にはない。とのこと。叱って効果があるのは、それをバネに発憤出来る土台を持った子供と大人だけだそうです。確かに、あそこがダメ、ここがダメ、ダメダメ、もっともっと・・・と言いつけられたら伸びるものも、伸びられないですね。

本校に、お世話になって約半年、ありがたい事にほとんど叱ることのない日々です。もちろん事と次第によっては叱ることも必要ですが、ほめることにより自己肯定感、イケテル感、やる気を高めるようと職員ともども努めていきたいと思えます。高校野球で優勝したある監督の言葉に「大勢の部員がいて、自然にふるいにかげられた時代とは違う。だから短所を指摘するより、長所を伸ばすことに腐心する」というコメントを思い出しました。子ども達、ひとり一人の持っている潜在的な能力、長所を少しでも引き出し、その持ち味を生かし活躍できる、そんな学校づくりを目指しています。

